

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立姫里小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立姫里小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

令和5年度、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生が80.0%、4年生が84.1%、5年生が73.9%、6年生が79.5%と、高学年で低い数値となっている。

令和5年度、小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生が76.0%、4年生が75.3%、5年生が60.8%、6年生が73.5%と、学年により大きな差がある。

令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は76.2%にとどまっており、さらなる意識の変革が必要である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和5年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、4年生が+0.05、5年生が+0.16、6年生が+0.02であった。今年度も昨年度に引き続き国語科を研究教科とし、指導力の向上に努めていく。

小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、3年生が68.0%、4年生が71.0%、5年生が58.7%、6年生が66.3%と高学年ほど低い数値となっている。

【学びを支える教育環境の充実】

令和5年度、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数はほぼなく、7割程度にとどまっている。心の天気の入力や授業での活用を、教員から意識づけていく必要がある。

令和5年度、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない、及び、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない）を満たす教職員の割合は68.8%であった。時間外勤務時間を減らそうという意識は高くなってきている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 70%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

(様式2)

大阪市立姫里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○ いじめを「しない・させない・見逃さない」の目標のもと、日々の指導を通じて一人一人の児童が安心して生活できる教育環境づくりに努める。 ○ 「いじめについて考える日」を年3回実施し、児童朝会や学年、学級で考える機会を設定する。 ○ いじめのアンケートを毎学期ごとに実施し、認知したいじめについて聞き取り、解消に向けて適切に対応する。	
指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○ 集会活動やひめっ子班活動などでのたてわり班活動を工夫することや学校行事、学級活動において、児童が協力して活動に取り組む機会を様々な場面で設ける。	
指標 様々な活動を通して、仲間を大切にし、ともに高めあえる集団を育成する。学校アンケート「友だちを大切にできている」の項目で、肯定的回答の割合を97%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立姫里小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○ 自分の考えをもち、表現できるようにするために、読解力・語彙力を向上させて、書く力の育成につなげる。さらに、文章で表現したものを活用して積極的に他者と交流する場を設定する。 ○ 国語科の指導方法の研究を進め、児童が「できる・わかる」を実感できるよう、指導力の向上を図る。 ○ 前期・後期各 1 回以上、読書週間を実施する。	
指標 学力経年調査の児童アンケートで「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答がいずれの学年も 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ○ 年 3 回、「体力向上週間」を定める。1 学期は体づくり運動(外遊び)、2 学期はかけ足、3 学期はなわとびを中心に、体育科の時間や休憩時間に取り組む。その際、児童が楽しんで取り組むことができるような「がんばりカード」を作成したり、運動委員会からなわとびの跳び方の紹介をしたりして進んで運動に取り組める工夫をする。	
指標 児童が楽しんで取り組みができるように「がんばりカード」を活用したり運動委員会でなわとびの跳び方を紹介したりして、年 3 回の「体力向上週間」を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立姫里小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 ○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ○ 毎日 1 回以上、デジタルドリル等を活用し、児童の習得状況を迅速かつ的確に把握して、一人一人に効果的な支援を行う。 ○ タイピングスキルの向上に取り組む (タイピング大会の年 2 回実施)。	
指標 学校アンケート「学習者用端末を使っている」に対する肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ 業務量が多い長期休業前後の授業時間を調整し、業務に取り組める時間を確保する。 ○ 二学期制の導入に取り組む。 ○ 業務時間や休憩時間を確保できる会議の設定や業務の分担を工夫する。	
指標 毎月の時間外勤務時間が 45 時間以下の教員の割合を 82%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	